

東日本大震災による人口変動への影響(8)

～大阪圏は減少傾向に逆戻りも、以前とは内容が異なる～

- 先日発表された総務省「住民基本台帳人口移動報告」の10月データをもとに、最近の人口変動の傾向をみてみたい。まず、三大都市圏における転入超過数（転入者数－転出者数）の動きは、東京圏が5ヶ月連続の転出超となったほか、名古屋圏は2ヶ月ぶりの転入超、大阪圏は3ヶ月連続の転出超となった。今月も東京圏の転出超が大きな注目点であるほか、大阪圏の動きについてもトレンドの変化を連想させるものとなっている。
(東京圏：東京、神奈川、埼玉、千葉、名古屋圏：愛知、岐阜、三重、大阪圏：大阪、兵庫、京都、奈良)
- ここでは大阪圏の動きに注目すると、震災以降は5ヶ月連続で転入超が続いていたものの、8月から転出超に変化している。特に、直近の10月は千人規模の転出超となっており、いよいよ震災前のトレンドに逆戻りした印象が強い。千人という規模だけをみれば、そう判断してもおかしくない。
- ただし、前年と比較すると、前年の10月は大半が対関東での減少によるものであるが、今年の10月は対関東よりも、対関西（大阪圏以外の関西への転出）をはじめとする関東以外の減少が目立つなど、震災前とは内容が大きく異なる。さらに、大阪圏への転入者数に着目しても、震災以降の傾向である、前年比での増加傾向には変化がみられない。
- 対関東でみた転入数も増加傾向が続いている。これは従来から指摘のとおり、本社機能・システム拠点の分散化の動きによって大部分が説明できるとみられる。あくまで移転ではなく分散化であるため、企業単位では目立った動きにはなりにくいものの、今後も安定的に続くものとみられる。
- 総合的な判断としては、大阪圏が震災後にみられた転入超のトレンドに戻る可能性はほとんどないといえよう。ただし、関東からの転入が増える動きは続いているという点で、震災後の構造変化自体は続いていると判断できるほか、今後も対関東以外での変動次第では転入超となる月があってもおかしくないとみられる。

三大都市圏における転入超過数の推移

	2011年									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東京圏	2103	1755	41885	19774	3722	-1207	-2817	-632	-535	-4
大阪圏	-1181	-1142	3070	5339	397	425	764	-385	-825	-1100
名古屋圏	-522	-561	1307	1472	430	454	197	102	-87	274

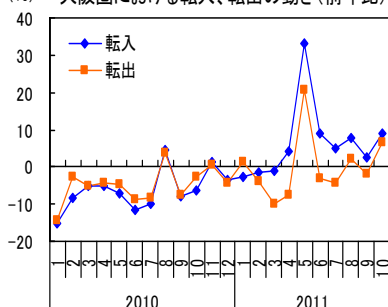
(出所)総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※転入超過数…転入者数－転出者数

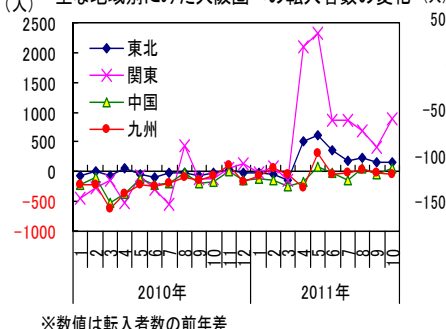
大阪圏の転入超過数の主な地域内訳(人)

	2010年10月	2011年10月
東北	-25	72
関東	-904	-266
中部	31	-130
関西	-172	-302
中国	-127	-209
九州	-87	-212

(%) 大阪圏における転入、転出の動き(前年比)



(人) 主な地域別にみた大阪圏への転入者数の変化



大阪圏の対関東における転出入の動き

